

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●高橋義忠調教師がJRA通算300勝を達成

6月22日(日)の1回函館4日・第6レースではマンオブザマッチが1着となり、同馬を管理する高橋義忠調教師(栗東)は、現役68人目となるJRA通算300勝(延べ3527頭目)を達成しました。

●第15回ジョッキーベイビーズ地区代表決定戦が開幕

全国ポニー競馬選手権「第15回ジョッキーベイビーズ」の地区代表決定戦が開幕しました。まずは6月8日(日)、宮崎県宮崎市のJRA宮崎育成牧場で実施された九州地区代表決定戦では、永谷愛琉さん(中学1年生)が同地区代表に決定。6月15日(日)にはJRA中京競馬場で中部地区代表決定戦が実施され、柴田凜さん(中学1年生)が同地区代表に決定しました。本年のジョッキーベイビーズ地区代表決定戦・選考会は計7地区で実施され、各地区代表は10月12日(日)に東京競馬場で行われる決勝大会に出場することとなります。

●ロンジンワールドベストレースホースランキング

6月13日(金)にIFHA(国際競馬統括機関連盟)から発表された「ロンジンワールドベストレースホースランキング」(単位はポンド/2025年1月1日から6月8日までに実施された世界の主要レースが対象)では、フォーエバーヤングが首位(127)をキープ。日本調教馬はフォーエバーヤングのほか、ダノンデサイルが第4位タイ(125)、ソウルラッシュが第13位タイ(121)、ドウレッツァ、タスティエーラ、日本ダービー(GI)勝ち馬クロワデュノール、安田記念(GI)を制したジャンタルマンタルが第16位タイ(120)となっています。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●シャマルがさきたま杯(浦和)をレコード勝ち、重賞9勝目

さきたま杯(JpnI、6月25日、浦和、1,400m)は、逃げた1番人気のシャマル(川須栄彦騎手、牡7歳、父スマートファルコン)がムエックス(船橋)を5馬身引き離し、レコードタイムで圧勝。3番人気のエンペラーワケアは3着、タガノビューティーは5着、チカッパは7着、2番人気のコスタノヴァは大きく出遅れて最後方からの競馬を強いられ、12頭立ての11着に終わっています。

●ベストグリーンが栄冠賞(門別)を制覇【各地の2歳重賞】

今年全国で最初の2歳重賞、栄冠賞(6月24日、門別、1,200m)は、ベストグリーン(牡、父スマートファルコン)が4番手から直線に入って間もなく抜け出し、単勝1.2倍の支持に応えて新馬戦から連勝しました。

●石川優駿(金沢)は牝馬ビバロジータ【各地の主要3歳重賞】

石川優駿(6月15日、金沢、2,000m)は、序盤最後方から徐々に追いつけた5番人気のビバロジータ(牝、父ヘニーヒューズ)がゴール前で内から差し切り、2歳8月の石川テレビ杯以来となる重賞2勝目を挙げています。

●ミッキーファイトらが出走、7月2日の帝王賞(大井)

帝王賞(JpnI、7月2日、大井、2,000m)は、世代交代を狙う4歳馬ミッキーファイトが中心、メイショウハリオ、ウィルソンテソーロが続き、以下アウトレンジ、ラムジェット、ノットウルノの順に有力視されます。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●ロイヤルアスコット開催～サトノレーヴは惜しくも2着

イギリス王室が主催するロイヤルアスコット開催がロンドン郊外のアスコット競馬場で、現地6月17日～21日の5日間にわたって行われました。最終日に組まれたG1クイーンエリザベスII世ジュビリーS(4歳上、芝1,200m)には日本から高松宮記念(GI)の勝ち馬サトノレーヴが出走しましたが、J.ドイル騎手を背に逃げたラザット(騙4歳、父テリトリーズ、仏J.レニエ厩舎)に半馬身及ばずの2着。日本調教馬によるロイヤルアスコット開催初勝利はなりませんでした。勝ったラザットはデビューから6連勝で昨年8月のG1モリスドゲスト賞(芝1,300m)に優勝。その後はオーストラリアのゴールデンイーグルが2着、G1香港マイルが9着、今年3月のアルティパン賞(L)も4着でしたが、スプリント路線に戻った前走5月のセルヴァンヌ賞(L、芝1,200m)を5馬身半差で逃げ切り勝ち。その後、カタールの首長であるタミム殿下が率いるワスナンレーシングにトレードされていました。

なお、2日目(6月18日)のメインレースとして行われたG1プリンスオブウェールズS(4歳上、芝1,990m)はW.ビューック騎手が手綱を取ったオンブズマン(牡4歳、父ナイトオブサンダー、J&T.ゴスデン厩舎)が直線で何度も行き場を失う場面を克服しての差し切り勝ち。昨年のG1英チャンピオンS勝ち馬アンマートに2馬身差をつける快勝で、G1初制覇を果たしています。